

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和 7 年度第 1 回高松市男女共同参画推進懇談会
開催日時	令和 7 年 9 月 9 日(火) 14 時～15 時 30 分
開催場所	高松市防災合同庁舎 3 階 301 会議室
議 題	(一) 委員の変更に伴う会長の選任について (1) 令和 6 年度「たかまつ女性活躍促進事業」の実績報告について (2) 令和 7 年度「たかまつ女性活躍促進事業」の実施計画について (3) 「第 5 次たかまつ男女共同参画プラン」の令和 6 年度における進捗状況について (4) 次期たかまつ男女共同参画プランの策定について (5) 令和 7 年度男女共同参画に関する意識調査項目(案)について
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上記理由	
出席委員	前原会長、犬伏委員、今橋委員、植村委員、香西委員、高橋委員、徳倉委員、中村(香)委員、中村(修)委員、仁賀委員、橋本委員
傍 聴 者	0 人(定員 5 人)
担当課 及び 連絡先	人権・男女共同参画推進課(839-2292)

会議経過及び会議結果

(一) 委員の変更に伴う会長の選任について

高松市男女共同参画推進懇談会設置要綱第 5 条第 2 項の規定に基づき、委員の互選により会長が選任された。

会長 前原 信夫 氏

(1) 令和 6 年度「たかまつ女性活躍促進事業」の実績報告について

(事務局説明)

【委員】

家事シェアワークショップやオンラインセミナーが面白そうであると感じたのだが、参加者の１６人は８組の参加であったのか。また、世代や、子どもがいるのかいないのか、子育てしているのかしていないのか、どういう御家庭の参加者がいたのか知りたい。

【事務局】

家事シェアワークショップは令和６年度初めて実施した。参加者の１６人は、独身で将来的に育児等も取り組みたいという男性の方もいたため、純粹に８組というわけではない。独身の方、生まれたての乳児のお子さんがおられる方、数人子育てしている母親もあり、幅広い世代の方と交流ができたワークショップであった。

【会長】

資料１の４ページ、企業認定の表彰、素敵にたかまつ女性活躍企業認定の内容について、市が認定企業を選定したということだが、認定数は毎年同じ６者という理解でよいのか。

【事務局】

認定について一定期間募集期間設け、その間に申請書を出していただき、認定企業の基準に適合しているかどうか判断しており、条件を満たしておれば、認定するという流れになっている。

【会長】

業者の方が応募してということによいか。どれぐらいの数の応募が実際あったのか。

【事務局】

昨年度は６者の応募があり、６者とも認定している。資料４ページの中央に、認定企業一覧がある。こちらの６者が、令和６年度の認定企業である。

【会長】

このような先進的な取り組みを行う企業の、その後のビジネスメリット、このような点で、今後のビジネスで生かせることができた、事業活動にプラスになった等の御意見はあるのか。

【事務局】

具体的にこういう効果があったというのはないが、女性活躍等の取り組みをしているということ、また、表彰企業には盾を渡しているので、一定程度PRする効果がある。企業の取り組み等について、広報とか市のホームページの方で紹介している。

【会長】

その他、意見はないか。

【委員】

日常生活の中で令和時代の子育て夫婦の30代の方は、4、50代の方に比べて、男性の家事参画、女性が活躍するという場面が普通になってきていると実感している。一方で、全員ではないが、6、70代の方の悪気のないアンコンシャスバイアスを強く持っていると感じるため、このような家事シェアワークショップはとても良いと感じる。今の子育て家庭への勉強の提供も必要だと思うが、それと同時に、高齢の方でそういうことに触れる機会のない方に一般化させていく、様々な方と繋がる中で地域の方などが、若い夫婦や子育て家庭を応援する、女性を応援するという認識を持ってほしい。多世代、特に高齢の方々に若い夫婦の姿を見てもらう機会などがあると良いと思う。

【事務局】

今年度既に同様の事業を実施した。今後の課題として、アンコンシャスバイアスの解消というのは、男女共同参画社会の中で取り組まなければいけない大きな課題ということは、私共としても認識している。アンコンシャスバイアスの解消に向けて、幅広い世代に働きかける方法を検討していきたい。

（２）令和７年度「たかまつ女性活躍促進事業」の実施計画について

（事務局説明）

【委員】

たかまつ女性活躍促進事業は数年度実施しており、また新しい取り組みもあるということだが、これ以外に来年度、新規に

考えていること、新しい事業の計画、また形にはなっていないがアイデアとしてあるもの等あれば共有してほしい。

【事務局】

この後、説明する予定であるが、現在、第5次たかまつ男女共同参画プランという計画があり、この計画期間が令和8年度までである。次期計画、令和9年度からも計画を策定することとしており、国が本年度この男女共同の基本計画を策定する予定であるため、そういった内容等を踏まえ、本市としてもプランを策定していく。令和9年度からの計画策定に先立ち、本年度、市民、事業所、市民団体に意識調査を実施することとしている。意識調査等の結果を踏まえ、現時点では未定だが、令和9年度の新しいプラン開始に合わせて新たな取り組み等を考えていけたらと考えている。

【委員】

ポイントは、地方の男女共同参画センターをどう活用するのかというところである。今年法律が変わり、又エックは男女共同参画機構に変わる。それをどう連携していくのかが1つのポイントである。2つ目のポイントは防災における男女共同参画である。避難所等での、女性や子どもにおける暴力等、見えな差別というものが非常にある中で、内閣府が男女共同参画で策定しているものがあるが、避難所に周知しきれていない。防災の計画や訓練を実施する際に活用できる方策が必要であると指摘もある。その他もあるが、素案が8月に出ているのでそれを確認しながら、来年度再来年度に向けて準備してほしいと思う。

（3）「第5次たかまつ男女共同参画プラン」の令和6年度における進捗状況について

（事務局説明）

【会長】

事前質問等がある場合は事務局から説明をお願いします。

（事務局説明）

【委員】

ＬＧＢＴ啓発事業講演会ってという言葉について。ＬＧＢＴという言葉が大分認識されるようになってきたが、最近はＬＧＢＴＱ＋という言葉の方に変わっている。ＬＧＢＴの方以外にクエスチョニングやそれ以外に当てはまらない方、もしその人たちが見た場合、無視されているのではと感ずるため、気付いたところから、訂正していくと良いと思う。もう１点が、男女共同参画センターでイベントをした際、イベントの協力者に初めて来たと言う方がいた。自分にとっては、当たり前知っているが、全然関係ない方には、場所も知らないのではと感ずた。男女共同参画フェスティバルも参加しているが、とても意識の高い方が参加するというイメージがある。意識のない方に知ってもらうため、新しい企画が必要だと思う。先日、ショッピングモールに行った際、啓発イベントを開催しており、クイズラリー等を実施していた。このような場所での啓発など、外に出て、男女共同参画について啓発活動することをできればよいと感ずた。

【事務局】

まず、ＬＧＢＴＱ＋という名称についてだが、現時点では、ＬＧＢＴと性的少数者という形で表現するように統一している。クエスチョニングの方がいることも十分理解している。研修などでは「Ｑ＋」の部分についても周知啓発をしている。もう１点の男女共同参画センター等で新しい企画の実施に向けてという提案については、指定管理者とも新しい企画等は協議していきたい。県の男女共同参画センターも来年春から稼働するため、役割分担等も話し合っていく予定である。男女共同参画センターの取り組みを、外に周知していけるよう工夫していきたい。

【委員】

広報高松になかなか男女共同参画の啓発の記事が載らないということ、大変憂いている。過去は特集で２ページ男女共同参画週間のときに確保していたが、この頃はパネル展のお知らせがわずかししか載っていない。広報誌での広報というのは重要だと考えている。他の委員からの意見としてもあったが、高齢の方のアンコンシャスバイアスの払拭は男女共同参画を進めていく上で重要な課題だと考えている。高齢の方は、ホームページとかＳＮＳの活用が、私たちが思うほど、あまり積極的ではな

いと思う。そういうことを踏まえ、各家庭に一部ずつ届く広報高松で、アンコンシャスバイアスを払拭するような内容を、男女共同参画週間でぜひ特集してほしい。年に1度の男女共同参画週間であるため、この期間を大事に扱ってほしい。

【事務局】

我々としても周知啓発のため広報高松の担当部署には要請している。しかし、広報自体が過去は月2回発行されていたところ、全戸配布になるタイミングで月1回となり、ページ数もある程度制約され、掲載できるスペース確保が難しくなっている。これらのことを踏まえ、ホームページやSNS、他の広報媒体等あれば活用していきたいと考えている。引き続き継続して働きかけていきたいと思うが、現時点では可能なスペースを活用するということで、御理解いただきたい。

【会長】

先程、委員から意見があったように、比較的年齢の高い方に向けての男女共同参画の啓発は、喫緊の重要な課題だと思う。広報の部分も含め、事務局の方で1度検討してほしい。高齢の方は紙媒体の方がやはりいいのかなと思う。SNSとかホームページとかを利用されている高齢の方もいるが、普段ノートパソコン等で情報を積極的に主体的に得ることができないという方もいるため、そのような方にとってみれば、紙媒体の広報紙は非常に重要な媒体ツールかと思う。その点も含めて検討お願いしたい。

(4) 次期たかまつ男女共同参画プランの策定について

(事務局説明)

(5) 令和7年度男女共同参画に関する意識調査項目(案)について

(事務局説明)

【委員】

資料5-2を見ると、国との比較等、基本的には網羅しているという認識だが、来年の計画策定に向けての意識調査に加えたほうがよいと思う内容がある。国がプランを作る中でいくつ

か新しい論点があり、今最大の論点が、テクノロジーの急速な進化による男女共同参画という項目である。A I を利活用する際に、A I は様々なものを学習していくため、そこでジェンダーバイアスがあると、A I の結果が本人が意図しないジェンダーバイアスであったり、差別を助長するような文言で出てくる可能性がある。テクノロジー機器をどう使用しているか、A I を普段の生活、仕事に使用しているかという項目を入れることで、A I に特化した男女共同参画を掲げ、高松の政策の意義が出てくると思う。D X など A I に限定する必要はないが、国の新しいプランにも確実に入ってくる項目になるので、国の情報を取り入れしながら検討してほしい。

【事務局】

内容等、検討してまいりたい。

【会長】

中高生向けということであったが、市内の中高生全員、全学校の方に調査するというのか。

【委員】

アンケートについて、ある程度、数を確保できればということで、現時点で高校については市立高松第一高校、中学生については附属高松中学校の方に依頼してということで考えている。

【会長】

調査後、調査結果を報告書としてまとめるということだが、調査の対象となった方々に向けて、例えば、中高生に調査結果を公開するという形をとるのか。やはり自分たちが回答した調査内容がどのような結果になったのかは知りたいと思う。

【事務局】

調査結果自体は、ホームページ等で公開していく。また、取りまとめたものを協力いただいた学校にフィードバックする。

【会長】

ぜひ、どこで、いつから確認できるか丁寧に示してほしい。

(閉会)